【週刊タバコの正体】

Vol.29 第10話～第13話　2014/11　和歌山工業高校　奥田恭久

■Vol.29

(No.403)　第10話　１年分のタール

－「よくもこんなものを吸い込むものだ」と思わずにはいられない...

タバコに含まれる３大有害物質「ニコチン」「タール」「一酸化炭素」のうち、「タール」は下の写真にように目で見ることができます。毎日２０本を１年間吸い続けた人の肺には、これだけのタールが溜まるそうです。１年間でこんな量になるのなら何十年も吸い続けるとどうなるのかを想像すると、ちょっと恐ろしくなります。こんなにタールが溜まる肺が黒くなるのは当然ですが、左下の黒くなった肺の写真を見れば、黒くなるだけではすまない事も容易に想像できるでしょう。

(No.404)　第11話　タバコと血流

－血液の流れは見えないので気付きませんが...

タバコの煙を吸い込むと体内の血管が収縮することを知っているでしょうか。つぎの画像はその証拠写真です。じつは、手などの末端にある毛細血管が縮むと血流が少なくなります。すると見た目ではわかりませんが、皮膚の温度を測定する装置を使うと次の画像のように喫煙の３０秒後には、温度を表わす色が変化します。だいたい２℃も低下してしまいます。

(No.405)　第12話　ライフサイクルとタバコ

－タバコを吸う人がいる限り受動喫煙がついてまわる...

「タバコは２０歳になってから」というのは世間の常識ですが、だからと言ってタバコの影響は大人だけにあるわけではありません。図にあるように、妊婦の喫煙は胎児に影響し“低出生体重児”や“死産”の危険性が増します。そして大人たちのタバコの煙は“乳幼児突然死症候群”の大きな危険因子で、“細気管支炎”や“細菌性髄膜炎”の原因ともなります。乳幼児期を過ぎても“気管支喘息”や“中耳炎”の発症に影響します。

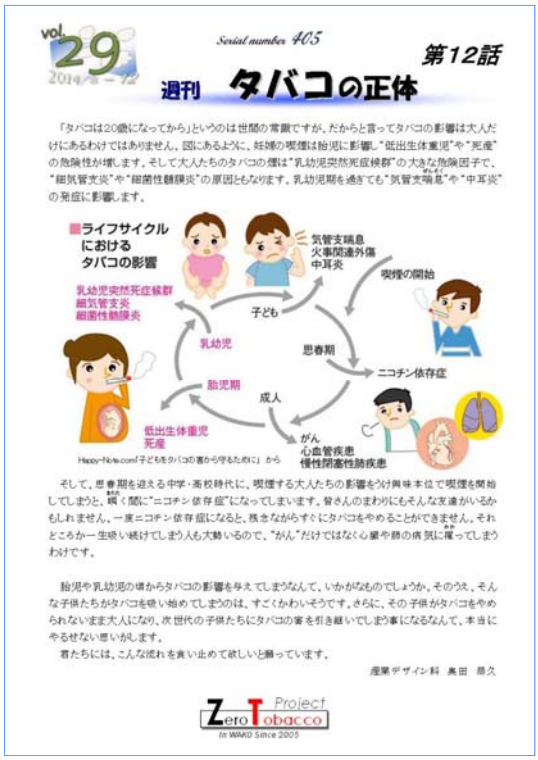
そして、思春期を迎える中学・高校時代に、喫煙する大人たちの影響をうけ興味本位で喫煙を開始してしまうと、瞬またたく間に“ニコチン依存症”になってしまいます。皆さんのまわりにもそんな友達がいるかもしれません。一度ニコチン依存症になると、残念ながらすぐにタバコをやめることができません。それどころか一生吸い続けてしまう人も大勢いるので、“がん”だけではなく心臓や肺の病気に罹かかってしまうわけです。

(No.406)　第13話　労働時間のロス

－貴重な労働時間をタバコに煙にしてしまう...

現在皆さんは高校生ですが何十年か後には、もしかすると会社の社長になっているかもしれません。社長ではなくても会社を経営する立場になっている可能性は十分にあります。今回は、自分がそんな経営者になったとして、タバコについて考えて見て下さい。

従業員を何人も雇って経営を続けるのは簡単なことではありません。給料や様々な経費を支払ったうえで利益をあげなければいけませんからね。ところが、その従業員に喫煙者が大勢いると下の図のような労働時間のロスを覚悟しなければなりません。



毎週火曜日発行

URL:http://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_2011.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のＨＰでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※ＨＰへのアクセスには右のＱＲコードが利用できます。